

ご挨拶

代表：横須賀邦子

いつも山のトイレを考える会にご協力をいただきましてありがとうございます。美瑛富士避難小屋トイレ設置署名は3ヶ月で2万筆の署名をいただきました、皆様の熱意がこれほど早く反映されたことは事務局一同も驚くと同時に皆様の思いを深く受け止めております。やっと辿り着いたトイレ設置署名活動、本来の会の目的がこれでした。これまでに取り組んだ課題はこの度要望する美瑛富士避難小屋で生かされることを祈っています。目標の3万筆にあと少しですが今一度皆様の周囲への働きかけを更にお願ひ申し上げます。

美瑛富士署名活動ご協力ありがとうございます！

活動報告

1. 第6回フォーラムの開催（2005.3.5）

第6回山のトイレを考えるフォーラムが札幌市環境プラザで開催され、70名を超える参加者を迎えて行われました。今回のテーマは「山はきれいになったか！次に私たちがすべきこと」です。ゲストスピーカーは次の4人でした。

- ・堀内直哉氏（屋久島ユネスコ協会会長）
- ・池田しのぶ氏（美瑛・白金ネイチャーセンター）
- ・酒元辰也氏（北海道上川支庁）
- ・須間和彦氏（利尻富士町）

最初に屋久島ユネスコ協会の堀内会長から講演をいただきました。世界遺産に指定されてから登山者、観光客が一気に増え、自然に与えるいろいろなインパクトやトイレ問題に苦慮している現状についてお話がありました。

討論では、黒岳のバイオトイレ導入後の問題点と対策、利尻の携帯トイレ推進の課題、大雪の携帯トイレ無料配布廃止の影響と今後の取り組み、そして「美瑛富士避難小屋のトイレ問題」について約4時間30分の長時間にわたって、真剣に話し合いました。今回のフォーラムで美瑛富士避難小屋のトイレ設置を求める署名活動をしよう！という意見も出るなど内容の濃いフォーラムだったと思います。

詳細は当会のホームページで紹介しています。



第6回フォーラム模様。定着した馬蹄形方式

2. 美瑛富士の署名活動実施（2005.7.1～）

3ヵ月で2万筆獲得！目標は3万筆
18年3月まで続けます

北海道の山岳地において野営地でもあり避難小屋もある場所で唯一トイレが無い美瑛富士避難小屋は、第1回フォーラムから問題提起していますが、7年間何の改善策も実施されませんでした。

16年9月にティッシュや人糞を担ぎ下ろす清掃登山を実施しましたが、再び元の状態に戻るのが実態です。

この問題について、当会では、まず、実情を登山者や一般市民に知ってもらい、改善を訴える署名活動を通じて、問題解決の端緒にしようと7月1日開始しました。

この問題に対する関心は相当強く、活動開始してから約3ヵ月で2万筆を獲得できました。当会では、JR札幌駅前での街頭署名活動2回、登山用品店「秀岳荘」の2店での活動、トイレデーでの活動など精力的に署名活動を行いました。何と言っても多くの皆様の地道な署名活動のご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

署名活動は18年3月まで実施します。更に多くの皆様のご協力をお願いします。



JR札幌駅前での街頭署名活動

3. 幌尻山荘排泄物担ぎ下ろしに参加 (2005.8.13~14 9.23~24)

日高山脈ファンクラブ(会長:樋口和生氏)主催の幌尻山荘排泄物担ぎ下ろし登山に当会から6名が参加しました。

幌尻山荘は日本百名山「幌尻岳」(2,052m)の登山道の中継地点(標高960m)にあり、全国の多くの登山者に利用されています。このトイレは毎年汲み取り、山荘周辺の地中に埋めて処理されていましたが、この状況を少しでも改善したいと、日高山脈ファンクラブが北海道の山岳トイレでは、初めての糞尿の担ぎ下ろしを実施したものです。

日高町の道の駅に集合し、事務局の高橋健氏より説明をしていただいた後、取水ダムまで車で行き(事前に特別に許可を得る)、一斗缶や4リットル缶をザックに入れ、額平川を十数回渡渉して幌尻山荘へ。

まずは、幌尻山荘前でカレーライスを食べ腹ごしらえをする。事務局が特別に配慮した食事、何とも言えない美味しさでした。

さあ、本番。一斗缶や4リットル缶にビニール袋を入れ、その中に柄杓で汲み出した糞尿を慎重に入れる。そして満杯になったらビニールの口をしっかり結ぶ。笑いも混じりながらの楽しい?作業でした。

これを皆さんのザックに手分けして入れ、額平川を転ばないように慎重に下りました。最後に振内鉄道記念公園のトイレに捨て、作業完了となりました(8月13日)。このイベントを主催した日高ファンクラブに感謝します。お疲れ様でした。



幌尻山荘の糞尿の汲み出し

4. 2005山のトイレデー実施 (2005.9.4)

2005トイレデーは9月4日に実施しました。北海道の約21箇所の登山口で美瑛富士避難小屋にトイレ設置を求める署名活動を中心に、山のトイレマナーガイドの配布、ティッシュやゴミを拾う清掃登山を一齐に行いました。

参加者は約90名、マナーガイドは約1900枚を配布することができました。署名活動では、多くの登山者やハイカーが快く署名に応じてくれました。山岳トイレ問題は誰でも解決して欲しいと切実に願っていることを改めて確認したトイレデーでした。

今回で5回目のトイレデー、認知度もかなり高くなったと感じます。活動に参加して頂いたみなさま、ありがとうございました。



黒岳山頂では306筆の署名をいただいた

5. カタログケースを作成

リーフレット、トイレマップを入れるカタログケースを20個作成し、登山用品販売店、各地のビジターセンター等への常設依頼を実施しました。常に補充をして、多くの皆さんが手に取って見てくれることを願って作成しました。



(ニュースレター作成担当)
仲俣善雄

第7回フォーラム開催案内

2006年3月4日(土)

場 所: 札幌市環境プラザ「環境研修室1・2」
札幌市北区北8条西3丁目 札幌エルプラザ2階
TEL: 011-728-1667

(スピーカー予定者)

日本トイレ協会 加藤 篤氏
清岳荘管理人 吉田 氏
自然トピアしれとご管理財団 法量 武氏
ひがし大雪自然ガイドセンタ 河田 充氏

時 間: 午後1時(開演)~午後5時

テーマ: 「トイレ問題解決への道しるべ」

~美瑛富士避難小屋に似合うトイレと管理のあり方~

連絡先

060-8589 札幌市北区北9条西9丁目 北海道大学大学院農学研究科園芸緑地学講座内
山のトイレを考える会事務局 (担当: 愛甲哲也)

電話&FAX: 011-706-2452 電子メール: hokkaido@yamatoilet.com

<http://www.yamatoilet.com>